

令和2年度総務省実証「デジタルサイネージを活用したLアラート情報等 災害情報の適切な表示に関する調査研究」概要

2020/5/12時点



- 災害時における訪日外国人や在留外国人に向けた多言語発信や、Jアラート情報を含めた各種情報の迅速な伝達を目指し、令和元年9月に総務省に設置された「デジタルサイネージにおける災害情報等の表示画面の標準仕様策定に関する検討会」において、災害情報等の標準表示形式（案）が取りまとめられたところ。
- 当該取りまとめを踏まえ、今年度事業では、Jアラート情報やLアラート情報に関する多言語対応について実証を実施し、標準表示形式の有効性を検証及びガイドラインへの反映を目指すとともに、デジタルサイネージを活用した災害情報等の配信の普及展開を推進するための方策案を取りまとめる。
- 具体的には、デジタルサイネージを活用した災害情報等配信及び表示方法について文献調査や自治体・ロケーションオーナー等へのヒアリングを通じて整理しつつ、東京及び名古屋において、実際の訓練などを通じた実証を4箇所程度※行う。

※当初東京オリパラ前後で各2回ずつを想定していたが、東京オリパラ延期に伴い、実施時期はこの限りではない。また、1箇所でも2回実施することも想定（総務省と相談済）

実証ロケーション及び検討状況等

スケジュール（案）

ロケーション	実証概要（現時点案）・検討状況
東京	<ul style="list-style-type: none"> ● 渋谷スクランブルスクエアビジョン（東急・東急エージェンシー様）を主眼に調整中 ● 通勤時間帯の地震発生を想定したJアラート、Lアラートの多言語発信（具体的に構築するシステムについては今後事業者と検討） ● 詳細シナリオについては検討予定
名古屋	<ul style="list-style-type: none"> ● 新幹線名古屋駅前大型ビジョンNAGY（Oval Jr.様）を予定 ● 南海トラフ巨大地震等、Jアラート（国民保護情報）の多言語発信 ● 詳細シナリオについては検討予定

